

図書館



眺望抜群のスペースに6万冊の図書をそろえた図書館

廊下



全面ガラスの開放的な廊下

PCLL教室



200台余の最新コンピュータを備えた4つのコンピュータLL教室



広々とした中庭

中学高校 新校舎完成 と 完全中高一貫教育の開始

2004年7月からスタートした中学・高校の100周年記念事業は、第1期工事の中高新校舎が完成しました。中学校の新1年生は、今年度からスタートする新しいカリキュラムによる完全な中高一貫教育体制の第1期生となります。愛知淑徳はこの新校舎という素晴らしいステージで、次の100年に向けた新しい中等教育の展開を始めます。

中学高校新校舎の完成

一昨年来、工事を進めてきた中学高校新校舎がこのほど完成し、3月31日に第1期工事竣工式が新校舎の東ラウンジで行われた。新校舎建設の最終の完成は来年3月末の予定であり、この後、旧校舎を取り壊し、第2体育館・事務棟・グラウンド造成などの第2期工事が始まる。しかし、教育活動に必要な殆どすべての基本的な施設・設備は第1期工事で完成しており、4月からの新学年は新しい校舎で始まった。

新校舎の第1の特色は何よりもゆとりとした広さと「ゆとり」である。新築校舎の延床面積は1万7705㎡(ただし、第1期工事では1万3656㎡)、それに加えて大学から移管されて改修した清明館等が3983㎡、合わせて2万1688㎡の校舎は従来の135%となり、他校には見られない広さである。

全教室には集中管理方式の空調施設を設置し、換気には「ロスナイ」を導入し、快適な環境とした。更に「生



音楽室



楽器演奏や合唱もできるように3段のひな壇が設けられている。窓側には現在は2期工事の防音のため、パネルにおおわれている

北棟屋上



北棟の屋上は、緑のある憩いの場所になっている

普通教室



居心地のよさを追求した普通教室。各教室にはプロジェクターを備え、机も一回り大きくなった

南棟屋上



屋上の太陽光発電設備

調理室



中央に試食室を設けた2教室を擁する

中高一貫教育に対応した校舎

徒にとつて居住性の良い学校」を目指し、生徒と先生・生徒間の交流・懇談のためのラウンジ、350人収容の「カフェテリア」と名づけられた二つの食堂、集会やコンサートにも使用する「センテナリーホール」、明るい中庭等々は

まさに他校には見られない「ゆとり」の校舎である。教室も70㎡と広くし、生徒机も今までより一段と大きいものとし、普通教室には愛知淑徳伝統のロッカールームを設置し、洗面をも備えた。

いま一つが愛知淑徳の目指す新しい完全中高一貫教育に対応した施設・設備の充実であり、教員室等も中学・高校がスムーズに連携できるように並べて配置し一体化した。愛知淑徳は今後の教育の柱として「社会の分野で活躍する女性」を目指しており、その基礎力養成のために語学・情報教育用の200台のコンピュータを配置した四つのパソコン・コンピュータ教室を作った。また、日常の授業で映像・音響を自由に使用するために全教室にプロジェクター・スクリーンを設置し、更に理科教育を重視し、「理科好き」の生徒を育てるために五つの理科教室、女子校としての伝統を引き継ぎ、試食コーナーを持った二つの調理教室と二つの家庭教室を作った。「調べ学習」とプレゼンテーション重視の社会科学習の方向に沿って、図書館は6万冊の蔵書を持ち、開架式でコンピュータ検索を導入している。また、芸術教育も重視し、音楽教室は器楽演奏もできる広々としたものとした。

更に重視したのが「明るい校舎」で

ある。教室は広い窓ガラス(最も、第Ⅱ期工事の旧校舎解体中はできなかった)静かな教育環境を確保するために、騒音防止パネルを南窓に設置している。で明るくし、特に中庭に面した空間は全面ガラスであり、従来の箱形の学校建築とは全く異なった明るい空間を構成している。本校は「明るく伸び伸びとした生徒の育成」を目指しており、そのための優れた環境が整ったものと思っている。一方、「学校の安全・安心」も校舎建設に当たっての重要なテーマであり、キャンパスの出入りを警備員のいる正門に限定し、校舎全体をしっかりと電子錠でガードできる構造とした。

愛知淑徳中学・高校は今年度より従来の教育から一歩踏み出し、完全な中高一貫教育体制を取ることとし、新中学一年はその1期生として、クラス数も増加させ、カリキュラムも一新した。新校舎という素晴らしいステージで、愛知淑徳の次の100年に向けた新しい教育の展開が始まる。